

令和 6 年 6 月 11 日現在

機関番号：12501

研究種目：国際共同研究加速基金（国際活動支援班）

研究期間：2016～2023

課題番号：16K21736

研究課題名（和文）関係性を中心とした融合型人文社会科学のための国際学術ネットワークの確立と活性化

研究課題名（英文）Establishing and activation of International Academic Networks for promoting relation-centered multi-disciplinary social sciences and humanities

研究代表者

酒井 啓子 (Sakai, keiko)

千葉大学・大学院社会科学研究院・教授

研究者番号：40401442

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 23,300,000円

研究成果の概要（和文）：本領域では、国際活動支援班が主導して「グローバル関係学」の学理確立、研究対象とするイシューを研究項目横断的に設定した横断研究の実施、各計画研究・公募研究間の意見交換と成果報告の場としての全体研究会、国際会議の開催を実施し、成果を上げてきた。そのため、研究期間中に シンガポール国立大学中東研究所と共催で「移民・難民・多文化共生」国際会議（2018年1月5～6日）、セルビア共和国社会科学研究所との共催で「グローバルな紛争に関する関係学」（同12月21～22日）、マヒドン大学インターナショナルカレッジとの共催で「資源と移動」国際会議（2019年12月1～2日）を実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

上述した国際活動支援班主催の国際会議では (a) さまざまな地域の専門家、実務家が結集することで、多くの事例比較が可能となった、(b) 実際に紛争と密接に関与した専門家の意見や経験を議論のなかに反映させることができた、という社会的意義を、(c) 研究報告を英語でフィリピンをベースにした国際ジャーナルAsian and Pacific Migration Journal 第28巻第4号およびタイ・マヒドン大学のジャーナルJournal of Population and Social Studies の28号(2020)Special Issueに掲載した、という学術的意義をもつ。

研究成果の概要（英文）：The International Activities Support Group has taken the lead in establishing the academic doctrine of 'Relational Studies on Global Crises', conducting cross-sectional studies that set the issues to be researched across research items, holding plenary meetings and international conferences as a forum for exchanging opinions and reporting results between each planned research and publicly solicited research, and has achieved results. To this end, during the research period, we held (i) an international conference on 'Migration, Refugees and Multicultural Conviviality' jointly organised with the Middle East Institute of the National University of Singapore (5-6 January 2018), (ii) 'Relational Studies on Global Conflicts' jointly organised with the Institute of Social Sciences of the Republic of Serbia (21-22 December 2018), (iii) the international Conference on "Resources and Mobility" in collaboration with the Mahidol University International College (1-2 December 2019).

研究分野：国際関係論、中東政治

キーワード：国際関係論 地域研究 トランスナショナル

## 研究当初の背景

本領域研究に取り組みようと考えた当初の背景には、21世紀に入り頻発しているさまざまな問題がある。こうした現代の国際社会が抱える喫緊の問題に取り組むために、地域社会の独自性を踏まえつつ、それがグローバルな関係性のなかにあって変容する過程を分析する、総合的視点をもった学問が必要と考え、それを「グローバル関係学」として学理を確立し、それを各事例の実証と連関させた研究群（「グローバル関係学」という研究領域）を形成することを目指した。

現代のグローバル社会での紛争や対立関係、その結果必要とされる社会復興や国家建設などについては、総合的・分野横断的研究として紛争解決・平和構築学や移民・難民研究がある。しかし、既存の紛争学の多くは紛争解決に力点を置き、その背景となるローカルコンテキストに関して深く掘り下げた分析が十分なされていない。紛争研究に地域研究を組み込み、現地社会の視点を強く反映させることで、紛争原因の解明に一層実態に合致した紛争研究が望まれることは、これまでもしばしば指摘されている。一方で、地域研究や比較研究の多くは、研究対象となる主体(地域共同体であれ国家であれ経済団体であれ)の内部の本質を分析することに力点を置いてきた。しかし、「新しい危機」の背景にある諸事象の多くは、主体の本質的要因というより主体を取り巻く関係性とその変化によって生じたものである。「イスラーム国」の出現が、イラク戦争やシリア内戦を経て中東地域の域内諸国間関係のバランスが変化した帰結であることは、言うまでもない。よって、現代の国際社会が抱える喫緊の問題に取り組むには、地域社会の独自性を踏まえつつ、それがグローバルな関係性のなかにあって変容する過程を分析する、総合的視点をもった学問が必要である。

関係性を扱う学問といえば、国際関係論がある。だが国際関係論の基本は国家間関係であり、一部トランスナショナルな非国家主体を扱うとはいえ、すべてのレベルの主体を包括的に研究対象としているわけではない。グローバル秩序が溶解しつつある現在、国家主体の優位性を自明とすることはできず、さまざまなレベルの主体の間関係性を包括的に捉える必要がある。このように、(1)地域の小さな変化が世界全体を揺るがす動態につながるメカニズムを、ローカル性とグローバル性の双方を鳥瞰虫瞰した研究視座をもって、(2)国家や地域社会、伝統的共同体、越境的ネットワーク、国家間同盟・統合体、文明圏・生態圏など、さまざまな規模とレベルの主体の複雑な関係性のありようとその変容を、(3)社会科学と地域研究の融合はむろんのこと、関連する諸人文科学、自然科学の手法を分野横断的に駆使して分析し、(4)それにより現代国際社会が直面するさまざまな危機的事態の解決の方策を探る、(5)そのための新たな学問分野を、問題解決型の応用科学として確立することを、本領域研究は志向するものである。そして、国際活動支援班は、本領域の研究推進と海外発信のため、国際交流を推進し、国際会議の主催を行うこととした。

## 研究の目的

「グローバル関係学」の視座を確立することによって、国家や地域社会、伝統的共同体、越境的ネットワーク、国家間同盟・統合体、グローバルな広域圏など、さまざまな規模とレベルの主体の複雑な関係性のありようとその変容を、社会科学と地域研究の融合はむろんのこと、関連する諸人文科学、自然科学の手法を分野横断的に駆使して分析し、それにより現代国際社会が直面するさまざまな危機的事態の解決の方策を探ることが可能となる、そのような関係性を中心とした新たな学問分野を、問題解決型の応用科学として確立することを目的とした。

本研究では、海外との学術ネットワークを最大限活用し、それらを結節してグローバルな国際学術ネットワークを確立するため、国際活動支援班を設置した。国際活動支援班には、山尾大(事務担当)、久保慶一(B02 分担者)、落合雄彦(A02 分担者)が参画、山尾は中東、久保はバルカン・南東欧諸国、落合はアフリカを研究対象地域とし、これまで数多くの現地調査を実施、現地の研究・実務機関と幅広い協力関係を確立してきた。その国際経験を活かして、すでに本領域研究に関連する代表者、分担者が確立済みの、海外研究機関との密接な協力関係に加えて、新たに共同研究相手を発見、学術ネットワークを開拓した。それを踏まえて、海外における国際会議の開催や現地での合同調査を企画、推進し、領域内の各計画研究が毎年度数回実施する研究会や国際ワークショップの一部を公開し、広く知見を国内外の社会に発信した。

国際活動支援班は、複数の計画研究組織や公募研究を組み合わせた国際会議を企画、包括的な問題解決の方策という共有の課題に取り組むことを目的とした。全体研究会や国際ワークショップで計画研究横断的な議論を展開し、同時に国内外で研究会を開催し、関連分野の学会で研究報告を行うことで、「グローバル関係学」に関する学際的討議の場を設けることが、班の活動の主目的である。特に、海外の国際学会やワークショップを通じてその成果を発信、海外の研究者の関心を喚起し、国際共同研究の広がりを目指した。

## 研究の方法

「新しい危機」を個別の研究手法、分野で独自に分析しても、包括的な問題の所在は見えず、ましてや解法の発見は不可能である。本領域研究は、こうした事例を異なる研究分野の有機的な連携のもとに、共同研究体制と総合的な分析視座を構築するものとして実施された。分野・地域横断型の融合的人文社会科学を一般化し、定着化することは、学知を総合した取り組みによって世界の未曾有の危機に対処し、実践的に具体的方策を講

じる基盤を提供することとなった。

国際活動支援班は、各計画研究組織が個別の研究にとどまらず共同研究へと発展できるよう、また各研究組織間の成果を横断的に統括し交流を推進するために設置された。総括班が(1)年数回全体会議を開催、研究成果を共有し研究者間の共通認識を深め、(2)「新しい危機」とみなしうる現代的課題を発掘、各研究組織に共有可能な研究テーマを提起し、(3)研究方法、研究対象地域に応じて計画研究横断的な共同研究を実施するのに平行して、国際活動支援班は、(4)総括班とは独立して、各計画研究が実施する国際学術交流を取りまとめ、調整するとともに、海外の研究協力機関や研究者を新たに発掘、各計画研究を横断した国際会議を、研究期間中最低2回、開催することとした。また計画研究が十分カバーできない諸分野での若手研究者の積極的な研究を発掘、推奨するために、若手育成委員会(石戸、鈴木)を設置し、公募研究など若手研究者の育成に力を入れるため、若手研究者を中心としたワークショップを企画するが、その際海外からの招へい、海外研究者の関与にも国際活動支援班は積極的にかかわった。そのことは、海外からも若手研究者を発掘し、各計画研究の研究協力者へと参加を促すことにつながった(現国際基督教大学・橋本直子がその一例)。ホームページを開設・運営してオンライン・ジャーナルやワーキングペーパーなどを創設したが、そこでも英文論文を積極的に発表した。海外の関連研究者に編集に参画、論文査読を依頼することを目的として、海外研究者との交流を密にした。

国際活動支援班は、問題意識と研究テーマを領域全体で共有し、それを軸に各計画研究組織が調査を進め、その研究成果を他の研究組織や海外の研究機関に伝達、発信し、そのフィードバックを領域全体で共有することで、領域全体として喫緊の現代的課題の解決への取り組みを遂行する総括班の業務を補佐することが主たる役割である。本領域ではさまざまな研究方法が並存した計画研究を組織し、人文社会科学における個別の学問的方法論を超えて、諸学問の有機的結合を図った。特に計画研究に設定されたレベルを超えた**3つの計画研究横断的プロジェクト**(「移民・難民・多文化共生をめぐる関係学構築プロジェクト」「グローバル危機における他者認識・パーセプション研究プロジェクト」「『グローバル関係学』確立のための新たな方法論探究プロジェクト」)を設定し、横断研究プロジェクトで行われる empirical な事例研究の成果を統括するために、国際会議を、期間中全3回実施した。領域内で重視したのは、この、計画研究による事例研究と、総括班(および公募研究者を含めた方法論プロジェクト)が展開する conceptual な議論の相互作用の活性化である。理論構築に専念する総括班が「グローバル関係学」の概念、方法論を構築し、それにまつわるキーワードを領域内全体で共有、それを土台としてそれぞれの事例研究を推進、その成果を海外の、特に研究対象とする地域に隣接する地域で国際会議を開催して発表するという、仮説と事例、成果の海外への発信というフィードバック体制を整えた。

## 研究の成果

本領域では「グローバルな危機」に直面している海外の地域の研究者、知識人との研究交流を重視し、「危機」分析における文脈性を強調している。国際活動支援班が主導して、「グローバル関係学」の学理確立、研究対象とするイシューを研究項目横断的に設定した横断研究の実施、各計画研究・公募研究間の意見交換と成果報告の場としての全体研究会、国際会議の開催を実施し、成果を上げてきた。具体的には、研究期間中にシンガポール国立大学中東研究所と共催で「移民・難民・多文化共生」国際会議(2018年1月5~6日)、セルビア共和国社会科学研究所との共催で「グローバルな紛争に関する関係学」(同12月21~22日)、マヒドン大学インターナショナルカレッジとの共催で「資源と移動」国際会議(2019年12月1~2日)を実施した。これらの国際会議では(a)さまざまな地域の専門家、実務家が結集することで、多くの事例比較が可能となった、(b)実際に紛争と密接に関与した専門家の意見や経験を議論のなかに反映させることができた、(c)研究報告を英語でフィリピンをベースにした国際ジャーナル Asian and Pacific Migration Journal 第28巻第4号およびタイ・マヒドン大学のジャーナル Journal of Population and Social Studies の28号(2020)Special Issue に掲載した、ことが成果である。(詳細は、下記年次別成果を参照。)

年次ごとの研究成果は、以下のとおりである。

### 2016年度

国際活動支援班は総括班とともに、9月、11月、2月の3回にわたり会議を開催し、本領域内での国際活動の企画、進捗について討議した。

そのうちの最大の議題が、国際会議の企画である。本領域では2年目以降毎年、海外の主要な大学、研究機関と共同で国際会議を開催するため、総括班・国際活動支援班は、2017年度の国際会議のテーマに「移民・難民・多文化共生」を選び、共同開催相手にはシンガポール国立大学中東研究所を選んだ。2月に同研究所の Ho Eng seng 所長ら主要研究員を招聘し、会議名を The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation?と決定、さらにプログラムや招聘研究者、会議開催時期(2018年1月5-6日予定)について協議した。

また、2018年度の国際会議共催相手国の候補として、英ロンドン大学 SOAS やセルビアの諸研究機関があげられ、国際活動支援班分担者がそれぞれ、現地研究機関との交渉、調整を行った。

総括班・国際活動支援班の役割には、紛争など現代のグローバルな危機にさらされる現地の研究者と密接な関

係を構築することがあるが、2月にはイラクのバグダード大学学長を招聘し、日本で初めての大学間交流協定が同大学と千葉大学との間で締結された。バグダード大学一行が園浦外務副大臣に会見するなど、このことは外交面でも高く評価された。

経常的活動としては、ウェブサイトには英文ページを設け、翻訳などを含め専門に管理するための特任研究員を雇用した。

#### 2017年度

2017年以来シンガポール国立大学中東研究所との間で一年以上密な研究交流、意見交換を重ねてきた結果、2018年1月5-6日、シンガポール国立大学中東研究所との共催で、同大学中東研究所 Conference Room にて国際会議 The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation? を開催することができた。会議には開催機関のみならず70人以上が参加し、熱のこもった議論が続けられ、会議は高い評価を受けた。

同国際会議では、日本側とシンガポール大学側が選んだ、移民難民研究の最前線にある研究者30人を結集し、7つの研究パネルを設定したが、最初のパネルでグローバル関係学の意義と目的、その理論的枠組みなどを提示、議論した。酒井の他、松永、久保が、7月23日に総括班主催の全体研究会にて国内で報告した各々のグローバル関係学試論をもとに、英語にて報告を行い、Ho Eng Seng シンガポール大学中東研究所長のコメントを受けて、フロアで関係性に注目する意義についての討議を広く行った。

残る6つのパネルでは、シリア難民、その他の難民問題（ロヒンギャ、アジアでのパレスチナ難民、イタリアへのアフリカ難民）、利用される移民/難民（アフガニスタン、日本での介護ワーカーなど）、湾岸産油国でのアジア移民、反移民/難民感情、移民/難民に対する法的保護、をテーマに各3報告を2日間にわたり実施した。

会議内容は中東研究所のHPで動画が掲載され、広く国際的に発信された。またシンガポール国立大学の知名度を活かした広報活動も熱心に行われ、シンガポールの他大学の関連研究者やNGO活動家など、多くが参加した。会議の様子はシンガポールのベンガル語紙 Banglar Kantha にて報道された。

#### 2018年度

紛争をテーマに12月21-22日、セルビア社会科学研究所との共催で、ベオグラード市内の Hotel Zira の会議場にて、国際会議「Relational Studies on Global Conflicts: Toward a New Approach to Contemporary Crises」を開催した。本国際会議は、グローバル関係学の主要な分析対象の1つである、多様なアクターが重層的に関与する地域紛争と、そうした紛争を経験した国・地域における紛争後の秩序の再構築を研究テーマとして取り上げ、2日間で合計8つのパネル、全29の研究報告を行った。会議には、日本、シンガポール、セルビア、英国、ドイツ、イタリア、ウクライナ、スロヴェニア、クロアチア、ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、モンテネグロから参加した報告者に加え、セルビア在住の大学院生、外交官(在セルビア日本大使含む)や国際機関の職員等も聴衆として参加した。参加者の内訳は日本からの参加者15名、海外からの参加者30名であった。

また、H30年度後半以降は分担者の石戸がタイ・マヒドン大学と31年度の国際会議共催可能性を巡り、頻繁に討議を重ねた。

一方で、H30年度に開催された世界中東学会、世界政治学会、世界社会科学フォーラムに、国際支援班から酒井、末近、久保、山尾が研究報告、パネル報告を行い、これらを通じて海外の研究者にグローバル関係学を発信したとともに、国際大会に参加していた国際ジャーナル・英文書籍出版社と会談し、今後の英文での研究報告書の出版可能性について討議した。また、領域で運営するウェブでのオンライン・ペーパーについて、これまで論文としてのカテゴリしか設けていなかったが、講演録や調査報告のカテゴリを新設して、国際会議報告を掲載するようにした。

#### 2019年度

2019年度はグローバル関係学の海外における研究拠点の1つとしての千葉大学バンコクキャンパス(マヒドン大学インターナショナルカレッジ内に設置)と同カレッジとの連携により

2019年12月2-3日、同大学 Charinyarasami Hall にて国際会議「資源と移動」International Conference on Resources and Human Mobility を開催した。そこでは、以下の点を会議趣旨とした。「人の移動は、広義の「資源」(天然資源のみならず、生活水準や雇用機会を含む経済的「資源」、民主主義など特定の統治体制としての政治的な「資源」、アイデンティティを含む文化的な「資源」)に大きく影響され、逆の影響もまた想定される。さらに人の移動と「資源」との関係性は地球規模・地域的・国家間および国内主体間の関係性として階層的・複層的に関わりあっている。本国際会議は、この状況を具体的かつ理論的に把握することを目的とする。」会議では8つのパネルが設けられ、日本からの参加者は18名、海外からの参加者は約25名(タイ、フィリピン、オーストラリア、オーストリア、ドイツなど)と、第一線の研究者が集結して活発な研究報告および討論が行われた。会議後、フィリピンをベースにした国際ジャーナル Asian and Pacific Migration Journal 第28巻第4号に、その概要報告が掲載された。

<https://journals.sagepub.com/eprint/XWA2IHURWP26FDBEZEFD/full>

#### 2020年度

成果の取りまとめを行う予定にしていた。その方法として、(1)和文での成果報告書出版、(2)英文での成果報告の作成と出版、(3)日本および海外での、海外からの関連研究者を招聘しての国際会議開催、を想定し、準備を進めてきた。

(1)の和文での成果報告書の出版については、7巻本の「グローバル関係学」叢書を岩波書店から出版した。一方(3)については、H31年度末から拡大を続けている新型コロナウイルスの感染蔓延により、一切の海外への渡航・海外からの招聘の道が閉ざされたため、実施できず、期間延長しての延期を余儀なくされた。

その分、H3年度に実施予定の国際会議の準備として、招聘対象となる海外の研究者との間で意見交換を頻繁に行った。グローバル・ヒストリーの観点からグローバル関係学に高い関心を示しているオーストラリア国立大学の G.Lawson 教授や赤見教授、レバノンのベイルート・アメリカン大学を拠点に活動するアラブ社会科学研究者ネットワーク(K.Makdisi 教授)、英アバーディーン大学の国際政治専門の A.Teti 教授らとオンラインでの意見交換を行い、いかにグローバル関係学を国際的に発信していくか検討した。特にオーストラリア国立大学とは、11月に日本語で国内の関連研究者を対象にワークショップを、12月には研究代表の酒井がグローバル関係学の概念についての基礎講演を、Zoomで実施した。

(3)については、成果報告予定であった海外での国際会議(IPSA 国際政治学学会など)が延期されたため、一定の準備はできたものの、成果報告の完成は遅れている。他方、H31年度に実施したマヒドン大学での国際会議の報告(石戸、山尾報告)を、Journal of Population and Social Studies の特集号として出版した。

<2021年後以降>

英文報告書と国際会議の開催を R3 年度に延期して準備をしてきたが、R3 年度においてもなお、海外調査や海外からの招聘を実施することができず、いずれも完結することができなかった。よって、国際会議の開催をさらに次年度に繰り越し、その準備として、引き続き招聘対象となる海外の研究者との間で意見交換を頻繁に行った。特にグローバル関係学に高い関心を示しているオーストラリア国立大学の G.Lawson 教授や赤見教授との研究ネットワークは、日本とオーストラリアに加えてドイツ、スイス、イギリスなどから類似の問題関心を持つ研究者の参加を増やし、月一回、定例のオンライン研究会を実施するまでに発展、地域研究と国際関係論のグローバル化に焦点を絞って活発な議論を展開した。

また、代表者の酒井はイラクの大学・研究機関との交流をさらに密に行い、バグダード大学やムスタンシリーヤ大学の大学院生・若手研究者を対象に、定期的な研究発表会を実施した。

2022年度は、グローバル関係学に高い関心を示しているオーストラリア国立大学の G.Lawson 教授や赤見教授との研究ネットワークは、日本とオーストラリアに加えてドイツ、スイス、イギリスなどから類似の問題関心を持つ研究者の参加を増やし、月一回、定例のオンライン研究会を実施するまでに発展、地域研究と国際関係論のグローバル化に焦点を絞って活発な議論を展開した。

また、代表者の酒井はイラクの大学・研究機関との交流をさらに密に行い、バグダード大学やムスタンシリーヤ大学の大学院生・若手研究者を対象に、定期的な研究発表会を実施した。

こうしたオンラインでの研究交流に加えて、本事業で報告した和文の研究成果をアラビア語、英語に翻訳し、中東、欧米の研究者に発信した。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 3件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 千坂 知世、山尾 大、末近 浩太	4. 巻 64
2. 論文標題 イスラーム革命防衛隊の海外派兵をめぐる イラン国民の認識 2021年サーベイ実験の結果から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 2~26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24765/ajiakeizai.64.1_2	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Suechika Kota	4. 巻 0
2. 論文標題 Measuring 'state-diffusion' in post-conflict authoritarian Syria evidence from the 2021 public opinion survey	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Mediterranean Politics	6. 最初と最後の頁 1~22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13629395.2023.2291957	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Yamao Dai、Suechika Kota	4. 巻 0
2. 論文標題 Measuring the evolution of Arab States' perceptions of the Iranian threat: a quantitative text analysis of Arabic-language state media, 2010?20	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 British Journal of Middle Eastern Studies	6. 最初と最後の頁 1~24
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/13530194.2024.2345882	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 酒井 啓子	4. 巻 0
2. 論文標題 グローバル関係学から見た「国際日本学」の役割	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本文明の再構築 : 岩倉使節団150周年に寄せて	6. 最初と最後の頁 117~130
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15055/0002000183	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 545
2. 論文標題 レバノン第20期国民議会選挙と「二大政党体制」の動揺	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 86-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太・山尾大	4. 巻 38 (1)
2. 論文標題 「アラブの春」後のリビアにおける国家再建と民主化：2019年実施の世論調査の結果から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本中東学会年報 = Annals of Japan Association for Middle East Studies	6. 最初と最後の頁 1-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 3
2. 論文標題 第13期大統領選挙に顕れるイラン・イスラーム革命体制の諸問題 (特集 中東諸国の政治体制の諸問題)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 20-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松永泰行	4. 巻 702
2. 論文標題 ロウハーニー後のイランとバイデン政権：対イラン制裁とイラン核合意の行方 (アメリカの政権移行と中東国際関係)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 32-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 2
2. 論文標題 アラブ民族主義と軍と左派 : アラブ60年の栄枯盛衰 (中東調査会設立60周年記念号)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 12-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 702
2. 論文標題 ゴミを出さずに消え去ることの困難 (アメリカの政権移行と中東国際関係)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際問題	6. 最初と最後の頁 1-4
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 10
2. 論文標題 ジハード主義とは何か : 宗教と暴力の関係を考える (連載「イスラーム主義を読む」)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 治安フォーラム	6. 最初と最後の頁 40-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 9
2. 論文標題 イスラーム主義とは何か : 政治と宗教の関係を考える (連載「イスラーム主義を読む」(1))	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 治安フォーラム	6. 最初と最後の頁 47-55
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 Yamao Dai、Hamanaka Shingo	4. 巻 6
2. 論文標題 Political mobilization and its impact on voter turnout: A survey experiment in Iraq	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics	6. 最初と最後の頁 421 ~ 440
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/20578911211039631	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山尾大	4. 巻 204
2. 論文標題 「日本国際政治学会における中東研究の変遷」(特別連載「日本の国際政治学 日本国際政治学会における研究の系譜と特徴」第7章)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際政治	6. 最初と最後の頁 117-125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takehiko Ochiai	4. 巻 52
2. 論文標題 Pentecostal-Charismatic Christianity and the State in Africa	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Asian Journal of African Studies	6. 最初と最後の頁 175-201
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 巻 35(3-4)
2. 論文標題 メコン川における越境漁業プロジェクトの進展と課題 : ラオス・ボークーオ県-タイ・チェンラーイ県の事例から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 千葉大学法学論集	6. 最初と最後の頁 104-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20776/S09127208-35-3-P104	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ishido, Hikari and Punpuing, Sureeporn	4. 巻 28
2. 論文標題 Human Mobility: The Role of Resources in Focus	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Population and Social Studies [JPSS]	6. 最初と最後の頁 1-1V
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 山尾 大、浜中 新吾	4. 巻 61
2. 論文標題 ポスト紛争社会の政治動員と投票率の関係 イラクにおけるサーベイ実験から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 アジア経済	6. 最初と最後の頁 2~27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山尾 大	4. 巻 28
2. 論文標題 Re-securitization as Evasion of Responsibility: A Quantitative Text Analysis of Refugee Crisis in Major Arabic Newspapers	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Population and Social Studies	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 540
2. 論文標題 「内戦後最大の政治経済危機に直面するレバノン」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中東研究	6. 最初と最後の頁 7-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 66
2. 論文標題 「アラブの春」から10年：イスラム主義はなぜ敗北したのか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 110-115
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 No. 60
2. 論文標題 翻弄されるイラク	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 56-61
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 170
2. 論文標題 揺らく米主導の「民主体制」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊アラブ	6. 最初と最後の頁 7-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 (845)
2. 論文標題 中東新冷戦を読み解く	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 経済倶楽部講演録	6. 最初と最後の頁 122-157
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Upalat Korwatanasakul, Kaliappa Kalirajan, Hikari Ishido and Martha Primanthi	4. 巻 1
2. 論文標題 Trade in Health Related and Social Services	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Promoting Services Trade in ASEAN	6. 最初と最後の頁 1-72
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Zbigniew Zimny and Hikari Ishido	4. 巻 2
2. 論文標題 Education Services	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Promoting Services Trade in ASEAN	6. 最初と最後の頁 1-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 167
2. 論文標題 「ヒズブッラーとイラン：1980年代初頭の中東政治の構造変容」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊アラブ	6. 最初と最後の頁 9-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 vol. 18, No. 9
2. 論文標題 レバノン：政治改革への一進一退	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 中東動向分析	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Takehiko, Ochiai	4. 巻 51(3)
2. 論文標題 The Belt and Road Initiative of China and Infrastructure Development in Africa	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Ryukoku Law Review	6. 最初と最後の頁 449-462
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 末近浩太	4. 巻 671
2. 論文標題 「「IS後」のシリア紛争：輻輳する3つの「テロとの戦い」(焦点：中東の新たな課題)」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『国際問題』	6. 最初と最後の頁 37-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Dai, Yamao	4. 巻 12 (2)
2. 論文標題 From Regional Politics to Street Demonstrations: Changes in the Iraqi Communist Party's Political Strategies in the Post-war Era "	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 International Journal of Contemporary Iraqi Studies	6. 最初と最後の頁 147-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1386/ijcis.12.2.147-1	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 59(7)
2. 論文標題 若者は何を指すのか	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 みすず	6. 最初と最後の頁 22-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 酒井啓子	4. 巻 669
2. 論文標題 移動する人々の時代は続く	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 みすず	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ochiai, Takehiko	4. 巻 42
2. 論文標題 Customary Land Tenure, Large-Scale Land Acquisitions and Land Reform in Sierra Leone	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Journal of African Studies	6. 最初と最後の頁 139 ~ 169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 久保 慶一	4. 巻 392
2. 論文標題 <特集> 比較政治学における因果推論	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田政治経済学雑誌	6. 最初と最後の頁 11-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 五十嵐誠一	4. 巻 45
2. 論文標題 ASEANが抱える人権と民主主義の隘路	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 外交	6. 最初と最後の頁 82-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsunaga, Yasuyuki	4. 巻 3(1-2)
2. 論文標題 (Theological and Institutional Soul-searching Aside) Will Re-problematizing Iran's Islamic State a la "Religious Secularity" Require Another Islamic State?	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Journal of Religious and Political Practice	6. 最初と最後の頁 84-87
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/20566093.2017.1292173	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ochiai, Takehiko	4. 巻 41
2. 論文標題 In a Grove? Sierra Leone's 1898 Hut Tax War Reconsidered	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Asian Journal of African Studies	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Ochiai, Takehiko, and Tomoko Kanata	4. 巻 印刷中
2. 論文標題 Obstetric Fistula in Liberia: Listening to the Voices of Fistula Survivors	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Liberian Studies Journal	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合雄彦	4. 巻 46
2. 論文標題 南アフリカのシティズンシップ教育関連資料：1997年高等教育法（抄訳）	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会科学研究年報	6. 最初と最後の頁 197-221
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 落合雄彦	4. 巻 47
2. 論文標題 南アフリカのシティズンシップ教育関連資料：1997年高等教育法（抄訳・完）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 社会科学研究年報	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件（うち招待講演 6件 / うち国際学会 26件）

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 Syrians' Perception of the Post-Conflict Reconstruction under Assad's Authoritarian Rules: A Quantitative Analysis of the 2021 Public Opinion Survey
3. 学会等名 BRISMES Annual Conference 2023 "Ecology, Crisis, and Power in the Middle East," University of Exeter, Exeter, UK (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 Lebanese Hezbollah's Political Communication Strategy in Consociational Democracy, 2016-2020: A Quantitative Text Analysis of Al-Manar
3. 学会等名 The 8th International Forum on Asia and the Middle East, "The Middle East Security and Development in the Global Context," Shanghai International Studies University (SISU), Shanghai, CHINA (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 Sectarianism and Political Institutions in Lebanon: A Quantitative Text Analysis of Hezbollah's Al-Manar
3. 学会等名 International Workshop "MENA Politics: State and Non-State Actors," National Chung Hsing University (国際学会)
4. 発表年 2024年



1. 発表者名 Keiko SAKAI
2. 発表標題 Bringing Area Studies to the Centre of IR: The Construction of the "Middle East" from the Colonial Period to the Present Day"
3. 学会等名 Global Asia: Entanglements Between West, South, Central and East Asia, 1900-2020 Workshop , 26-29th October 2023, Oct 28, 2023 ( 国際学会 )
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yasuyuki Matsunaga
2. 発表標題 "Dissecting Multilayered Insurgencies: A Relational, Genealogical and Decolonial Perspective"
3. 学会等名 Decolonizing Kurdish Studies Initiative Workshops ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keiko SAKAI
2. 発表標題 How Does Geo-Historical Factor Affect Voting? Case of Baghdad in Election 2021
3. 学会等名 APSA American Association of Political Science Annual Meeting 2022 ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keiko SAKAI
2. 発表標題 How do geo-historical factors affect political preference: the case of Baghdad constituency in Iraqi parliamentary election in 2021
3. 学会等名 Annual Conference of British Association of Middle East Studies ( 国際学会 )
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keiko SAKAI
2. 発表標題 Area Studies and Japanese International Relations
3. 学会等名 International Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 イラク史における社会運動とさまざまな国民意識の出現
3. 学会等名 第 13 回 日本・イラク合同学術会議 「日本とイラクの歴史、政治と社会：両国の視座から」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 "Hezbollah's Framing of Resistance: A Quantitative Text Analysis of Hasan Nasrallah's Speeches 2005-18"
3. 学会等名 Middle East Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 "Israeli Zionists or Syrian Takfiris: A Quantitative Analysis of Hezbollah's Framing of Resistance," Panel RC42.04 "Evolving Methodologies in the Study of Middle East Politics"
3. 学会等名 International Political Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kennichi Kubo
2. 発表標題 Impact of the ICTY on Local Mass Media: Longitudinal Content Analysis of the Serbian Newspapers, 2003-2016
3. 学会等名 International Political Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Yasuyuki Matsunaga
2. 発表標題 Decolonizing Kurdish Studies Initiative Workshops
3. 学会等名 Brown University Center For Middle East Studies & Yale MacMillan Center Council on Middle East Studies (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Keiko Sakai
2. 発表標題 Sources of Candidates' Reputations According to Political Bloc in Post-2003 Iraqi Election: from sectarian mobilization to the myth of social activism
3. 学会等名 International Political Studies Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 五十嵐誠一
2. 発表標題 メコン地域における新たなアーキテクチャー構築の可能性
3. 学会等名 第86回政策本会議(主催：東アジア共同体評議会) (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hamanaka, Shingo and Dai Yamao
2. 発表標題 Political Mobilization and Its Impact on Voter Turnout: Based on a Survey Experiment in Iraq
3. 学会等名 Southern Political Science Association Annual Meeting (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 「誰の「インフォーマル」か
3. 学会等名 日本比較政治学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Keiko Sakai
2. 発表標題 The 1920 Revolution: Contingent Synchronicity of Constructed and Passive Projects of Nation Formation in Iraq
3. 学会等名 100th anniversary of Iraqi Thawrat Ashrin, University of Baghdad (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Keiko Sakai
2. 発表標題 Thawrat Ashrin: al-tzamn al-tasadiqi bayna al-mashariu al-banna wa al-mashariu al-salbiya (アラビア語)
3. 学会等名 100th anniversary of 1920 Revolt in Iraq, Karbala Center for Studies and Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Keiko Sakai
2. 発表標題 History of Iraq-Japan relation: economy in mutual love, politics in one-side love
3. 学会等名 The 11th International Iraqi Japanese Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 “Diffusion and Convergence of Statehood in Syria under Conflict: The 2017 Social Survey Analysis”
3. 学会等名 The 22nd Mediterranean Studies Association Annual International Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 末近浩太・吉川卓郎・横田貴之
2. 発表標題 Social Disorder, Purged Islamist, and Dysfunctional Humanitarian Intervention over the Arab Authoritarianism: The Case of the Muslim Brotherhood Movements in the 2010s
3. 学会等名 CEEISA-ISA 2019 Joint International Conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiichi Kubo
2. 発表標題 Impact of the ICTY trials on local mass media: quantitative text analysis of the three Serbian Newspapers, 2003-2016
3. 学会等名 International Political Science Association, Joint Colloquium (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiichi Kubo
2. 発表標題 International transitional justice and domestic mass media: quantitative text analysis of Serbian newspaper reporting on the ICTY and war crimes
3. 学会等名 2nd annual POLTEXT conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Dai Yamao
2. 発表標題 Measuring the Impact of the IS on Media Reporting: Based on Quantitative Text Analysis of Major Iraqi Newspapers
3. 学会等名 2nd annual POLTEXT conference
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Takehiko, Ochiai
2. 発表標題 "Customary Land Tenure and Large-Scale Land Acquisitions in Sierra Leone: What May Change or Remain the Same under Land Reform"
3. 学会等名 the 8th Humanities Korea International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 落合雄彦
2. 発表標題 英領ナイジェリアにおけるアサイラムと曖昧な植民地主義
3. 学会等名 日本精神医学史学会第21回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 『国際政治学』は終わったのか？(地域研究からのコメント)
3. 学会等名 日本国際政治学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 酒井啓子
2. 発表標題 IS後の中東情勢：不安定化の構造
3. 学会等名 日本工業倶楽部（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yasuyuki Matsunaga
2. 発表標題 "A Conceptual Discussion: What is Resecularization in connection with Secularism, Secularity, the Secular, State-Religion Relations, Religious Resurgence, Deprivatization of Religion, and Desecularization?"
3. 学会等名 Japan Center for Middle Eastern Studies, Beirut, Lebanon
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kota Suechika
2. 発表標題 “ ‘Sectarianisation’ of the Syrian Conflict: Hizballah’s Military Intervention and Redefinition of ‘Resistance’ ”
3. 学会等名 Centre for Middle East Studies, Institute of Mediterranean and Oriental Cultures, Polish Academy of Sciences, Staszic Palace, Warsaw
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Matsunaga, Yasuyuki
2. 発表標題 Reconciling Islamic Constitutionalism with Pragmatic Governance: What Does the Iranian Experience Offer?
3. 学会等名 Arab Association of Constitutional Law (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kota, Suechika
2. 発表標題 "Redefining 'Resistance': Hizballah's Military Intervention in the Syrian Conflict and its Consequences"
3. 学会等名 The 5th International Forum on Asia and the Middle East (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Kota, Suechika
2. 発表標題 "Strategies, Dynamics, and Outcomes of Hizballah's Military Intervention in the Syrian Conflict"
3. 学会等名 International Conference on "Reconstructing State Security and National Integration in the Middle East" (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計31件

1. 著者名 石戸光	4. 発行年 2023年
2. 出版社 御茶の水書房	5. 総ページ数 462
3. 書名 新構造経済学	



1. 著者名 西尾 哲夫、東長 靖	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 392
3. 書名 中東・イスラーム世界への30の扉	

1. 著者名 日本比較政治学会	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 208
3. 書名 インフォーマルな政治制度とガバナンス	

1. 著者名 Ratuva, Steven, Hamdy A. Hassan and Radmir Compel	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Palgrave	5. 総ページ数 412
3. 書名 Risk, Identity and Conflict: Theoretical Perspectives and Case Studies	

1. 著者名 水島 治郎、米村 千代、小林 正弥	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 312
3. 書名 公正社会のビジョン	

1. 著者名 Takehiko Ochiai, Misa Hirano-Nomoto, Daniel E. Agbibo	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 296
3. 書名 People, Predicaments and Potentials in Africa	

1. 著者名 Keiko Sakai and Philip Marfleet eds	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 238
3. 書名 Iraq after the Invasion: People and Politics in a State of Conflict	

1. 著者名 Larbi Sadiki ed	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 684
3. 書名 Handbook of Middle East Politics	

1. 著者名 五十嵐 誠一、酒井 啓子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 254
3. 書名 ローカルと世界を結ぶ	

1. 著者名 松永泰行（編著）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 226
3. 書名 「境界」に現れる危機（グローバル関係学 第2巻）	

1. 著者名 石戸 光、鈴木 絢女	4. 発行年 2021年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 292
3. 書名 多元化する地域統合	

1. 著者名 山尾 大	4. 発行年 2021年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 296
3. 書名 紛争のインパクトをはかる	

1. 著者名 中村 覚、末近 浩太	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 276
3. 書名 シリア・レバノン・イラク・イラン	

1. 著者名 酒井 啓子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 218
3. 書名 グローバル関係学とは何か	

1. 著者名 未近 浩太、遠藤 貢	4. 発行年 2020年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 216
3. 書名 紛争が変える国家	

1. 著者名 未近 浩太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 336
3. 書名 中東政治入門	

1. 著者名 足立 研幾、板木 雅彦、白戸 圭一、鳥山 純子、南野 泰義	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 プライマリー国際関係学	

1. 著者名 鈴木 董、近藤 二郎、赤堀 雅幸	4. 発行年 2020年
2. 出版社 丸善出版	5. 総ページ数 826
3. 書名 中東・オリエント文化事典	

1. 著者名 キン・ニュン、千葉大学研究グループ（訳および解題）（代表：石戸光）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 382
3. 書名 私の人生にふりかかった様々な出来事（上巻）：ミャンマーの政治家キン・ニュンの軌跡	

1. 著者名 キン・ニュン、千葉大学研究グループ（訳および解題）（代表：石戸光）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 三恵社	5. 総ページ数 309
3. 書名 私の人生にふりかかった様々な出来事（下巻）：ミャンマーの政治家キン・ニュンの軌跡	

1. 著者名 久保 慶一	4. 発行年 2019年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 290
3. 書名 争われる正義	

1. 著者名 松尾 秀哉、近藤 康史、近藤 正基、溝口 修平	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 496
3. 書名 教養としてのヨーロッパ政治	

1. 著者名 El-Hachimi, Mohamed	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Konrad Adenauer Stiftung	5. 総ページ数 140
3. 書名 From Democratic Transition to Democracy Learning: towards a paradigmatic turn in democratization studies	

1. 著者名 平和安全保障研究所	4. 発行年 2018年
2. 出版社 朝雲新聞社	5. 総ページ数 263
3. 書名 激変する朝鮮半島情勢 : 厳しさ増す米中競合	

1. 著者名 小笠原 弘幸	4. 発行年 2019年
2. 出版社 九州大学出版会	5. 総ページ数 324
3. 書名 トルコ共和国 国民の創成とその変容	

1. 著者名 Hidetoshi Taga and Seiichi Igarashi,	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Routledge	5. 総ページ数 240
3. 書名 The New International Relations of Sub-Regionalism: Asia and Europe	

1. 著者名 安里 和晃編、五十嵐誠一	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学出版会	5. 総ページ数 312
3. 書名 国際移動と親密圏 - ケア・結婚・セックス	

1. 著者名 山口昭彦編、酒井啓子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 344
3. 書名 クルディスタンを知る60章	

1. 著者名 足立研幾、岡野英之、山根達郎、中内政貴、工藤正樹、山尾大、佐々木葉月、山根健至、今井宏平、福海さやか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 312
3. 書名 『セキュリティ・ガバナンス論の脱西欧化と再構築』	

1. 著者名 松尾昌樹、岡野内正、吉川卓郎、溝淵正季、末近浩太、岩崎えり奈、渡邊祥子、金城美幸、円城由美子、今井宏平、村上拓哉、坂梨祥、吉岡明子、江崎智絵、掘抜功二、井堂有子、平井文子、岩坂将充、細田尚美	4. 発行年 2016年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 362
3. 書名 『中東の新たな秩序（グローバル・サウスは今 第3巻）』	

1. 著者名 月村太郎、大庭千恵子、定形衛、東野篤子、石田信一、久保慶一	4. 発行年 2017年
2. 出版社 晃洋書房	5. 総ページ数 278
3. 書名 ユーゴ後継諸国の対外政策と国際関係に関する研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて 関係性中心の融合型人文社会科学の確立  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index.html</a>  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index.html</a>          新領域科研「グローバル関係学」総括班・国際活動支援班  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/group_summary/summary_index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/group_summary/summary_index.html</a>          新学術領域研究「グローバル関係学」総括班・国際活動支援班  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/conventions/index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/conventions/index.html</a>          新学術領域研究「グローバル関係学」総括班・国際活動支援班  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/group_summary/summary_index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/group_summary/summary_index.html</a>          新学術領域研究「グローバル関係学」国際会議  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/conventions/index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/conventions/index.html</a>          グローバル関係学 総括班・国際活動支援班  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/group_summary/summary_index.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/group_summary/summary_index.html</a>          The Global Refugee Crisis Conference  <a href="https://www.youtube.com/playlist?list=PLMKn9JnbU2xBzgj8xA0Bs5PvgMrS7IC_t">https://www.youtube.com/playlist?list=PLMKn9JnbU2xBzgj8xA0Bs5PvgMrS7IC_t</a>          RELATIONAL STUDIES ON GLOBAL CRISES  <a href="http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index_en.html">http://www.shd.chiba-u.jp/gblcrss/index_en.html</a></p>
---

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松永 泰行  (Matsunaga Yasuyuki)  (20328678)	東京外国語大学・大学院総合国際学研究院・教授   (12603)	



6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	落合 雄彦  (Ochiai Takehiko)  (30296305)	龍谷大学・法学部・教授    (34316)	
研究分担者	久保 慶一  (Kubo Keiichi)  (30366976)	早稲田大学・政治経済学術院・教授    (32689)	
研究分担者	石戸 光  (Ishido Hikari)  (40400808)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授    (12501)	
研究分担者	五十嵐 誠一  (Igarashi Seiichi)  (60350451)	千葉大学・大学院社会科学研究院・准教授    (12501)	
研究分担者	末近 浩太  (Suechika Kota)  (70434701)	立命館大学・国際関係学部・教授    (34315)	
研究分担者	山尾 大  (Yamao Dai)  (80598706)	九州大学・比較社会文化研究院・准教授    (17102)	
研究分担者	鈴木 絢女  (Suzuki Ayame)  (60610227)	同志社大学・法学部・准教授    (34310)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計7件

国際研究集会 Why do we need Relational Studies in understanding Global Crises? (Online, with ANU)	開催年 2020年～2020年
--	--------------------

国際研究集会 マヒドン国際会議「資源と移動」International Conference on Resources and Human Mobility	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Relational Studies on Global Conflicts: Toward a New Approach to Contemporary Crises	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 国際シンポジウム “ The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation? ”	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Workshop “ ‘ Global Asia: Entanglements Between West, South, Central and East Asia, 1900-2020 ’ ”	開催年 2023年～2023年
国際研究集会 第 13 回 日本・イラク合同学術会議 「日本とイラクの歴史、政治と社会：両国の視座から」	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 第14回日本・イラク合同学術会議	開催年 2023年～2023年

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
イラク	University of Baghdad	Mustansiriya University		
タイ	マヒドン大学			
セルビア	社会科学研究所			
シンガポール	シンガポール国立大学中東研究所			
タイ	マヒドン大学	メコン機構		
英国	ロンドン大学			
シンガポール	シンガポール国立大学中東研究所			
セルビア	セルビア社会科学研究所			
イギリス	ロンドン大学SOAS中東研究所			
タイ	マヒドン大学	メコン機構		
トルコ	Okan University			